

Hokkaido University News

北大時報

平成28年

6

No. 747 June 2016

名誉教授称号授与式の挙

行
北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙



1 北海道大学校友会エルム設立について

全学ニュース

- 1 名誉教授称号授与式の挙
- 2 北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙
- 3 山口総長が台日大学学長フォーラムへ参加
- 4 北大フロンティア基金
- 6 札幌キャンパスで第13回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
- 6 新渡戸カレッジで対話プログラムを開始
- 7 平成28年度新渡戸カレッジ入校式を挙
- 8 新渡戸カレッジ5月学内合宿を実施
- 9 平成28年度新渡戸スクール入校式を挙
- 9 「製薬企業等6社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開
- 10 北大発ベンチャー称号記授与式を挙
- 10 「学習への動機づけを行う授業スキル」ワークショップを開
- 11 新任教員向け研修「知って活用したい北大の諸制度」を開
- 11 「クリッカーの使い方入門」研修を開
- 12 ワークショップ「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」を開
- 12 「21世紀の超スマート社会に関するフォーラム」を開

部局ニュース

- 13 水産科学館水産生物標本館の竣工式を挙
- 14 北極域研究センターで北極域研究共同推進拠点開設記念講演会・記念シンポジウムを開
- 15 函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
- 15 工学研究院でトヨタ自動車株式会社代表取締役副社長による特別講演会を開
- 16 教育学院・教育学研究院・教育学部FD研修「障害者差別解消法に係る本学の取り組みについて」を実施
- 16 獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開
- 17 獣医学研究科寄附講座「獣医学専攻診断病理学講座」感謝状贈呈式の開



函館キャンパス
春のキャンパス一斉清掃



工学研究院
トヨタ自動車株式会社代表取締役副社長による特別講演会



北大発ベンチャー称号記授与式



ワークショップ「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」

- 17 国際広報メディア・観光学院が中国 安徽大学において「日中メディア文化研究ワークショップ」を開
- 18 北方生物園フィールド科学センターで「植物販売会」を開
- 19 看護週間－「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施
- 19 北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流

諸会議の開催状況 20

研修

- 21 平成28年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修

表敬訪問 22

人事 23

- 24 新任教授紹介

訃報

- 25 名誉教授 笹谷 宜志 氏
- 25 名誉教授 高桑 榮松 氏
- 26 名誉教授 戸塚 靖則 氏

資料

- 27 在籍学生数（平成28年5月1日現在）
- 29 平成28年度外国人留学生数（平成28年5月1日現在）
- 30 平成28年度国別外国人留学生数（平成28年5月1日現在）
- 31 平成27年度卒業・修了者の就職等状況一覧



北方生物園フィールド科学センター
植物販売会



北海道大学病院
看護週間－「看護の日の夕べ」

表紙：新渡戸カレッジ対話プログラム（関連記事6頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景㊿ 日本一の秘境駅

北海道大学校友会エルム 設立について

理事・副学長 みかみ 三上 たかし 隆



平成28年6月1日に、従来の北海道大学連合同窓会を再編し、新たに「北海道大学校友会エルム」（愛称：エルム会、英語名：Hokkaido University Alumni Association）が設立されました。ここでは、その設立について報告します。

校友会エルム設立の背景と経緯

本学の全学同窓会に位置づけられ、学部等同窓会と地区同窓会で組織された北海道大学連合同窓会は、「本学が世界水準の知のリーダーとして発展していくためには、従来にもまして社会へ向けて情報発信し、教育研究活動への参加や支援を求め、社会ニーズを的確に把握することが重要であり、そのためには、大学構成員の努力はもちろんのことであるが、同窓生などの支援協力が不可欠であり、大学と密接に連携した全学同窓会を設立することが必須である」とする理念のもと、平成16年に設立されました。

設立10年目を迎えた平成26年6月の連合同窓会総会において、連合同窓会の今後のあり方について新たな提案がなされました。議論の末、大学を取り巻く環境が経済的にも社会的にも厳しくなる状況下において、連合同窓会の設立理念のもと、より実質的な全学同窓会組織として再構築する必要があると認識されました。その後、7回のあり方検討委員会及び3回の設立準備委員会を経て、本年6月に新たな組織として校友会エルムが設立されました。

校友会エルムの特徴と目指す方向性

1) 学部同窓会や国内外の地区同窓会の垣根を超えた横断的な連携関係を構築するとともに、同窓生に加え、大学

の教職員、在学生、さらには保護者などを含めた全ての関係者で構成する新たな人的ネットワーク組織です。また、本学と同窓生の相互支援体制の要としても極めて重要な組織となります。

2) 本学は多くの同窓生が働く首都圏、京阪神、中京圏からは遠く離れていますが、そのハンディキャップを乗り越えて広範にわたり同窓生の結集と連携をはかり、様々な校友会活動に対応できる機動的な運営体制を構築するとともに、近い将来には一般社団法人への円滑な移行を目指します。

校友会エルムの事業活動

- 1) 在学生の就職、教育及び研究活動の支援
- 2) 従来個別に収集されていた学部・地区同窓会の会員情報の一体的な管理・運用
- 3) 世代、職域等を超えた同窓生と在学生、教職員との連携・交流の強化
- 4) 情報発信、広報活動及び財政基盤の強化

なお、詳細は、今後事業計画という形で検討し、さらに議論を深めていくことになります。

今後、魅力的な事業を目に見える形で展開し、北海道大学校友会エルムの存在が同窓生や在学生らに浸透することが急がれます。そして、同窓生には校友会エルムの諸活動を通して、「北海道大学の何々学部を卒業した」という意識とともに、「北海道大学を卒業した」という共通の絆を持っていただきたいと思います。

■全学ニュース

名誉教授称号授与式の挙行



名誉教授授与式出席者一同

先に本学名誉教授に決定された方々（32名）に対する称号授与式を、6月3日（金）に学術交流会館講堂において執り行いました。

当日出席された12名の名誉教授一人ひとりに、山口佳三総長が称号を授与

した後、長年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。閉式後は記念撮影が行われました。

また、引き続きファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにおいて、道内在住の名誉教授と役員、

副学長、部局長との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が低温科学研究所、遺伝子病制御研究所、電子科学研究所、触媒科学研究所を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、役員、副学長、部局長を合わせて47名が出席され、西井準治電子科学研究所長の開会の辞に始まり、山口総長の挨拶と乾杯、担当理事による大学の状況報告、新旧の名誉教授のスピーチがあった後、三上 隆理事・副学長の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、朝倉清高触媒科学研究所長の閉会の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。

（総務企画部人事課厚生労務室、低温科学研究所、遺伝子病制御研究所、電子科学研究所、触媒科学研究所）

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行

6月1日（水）、北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、山口佳三総長から被称号授与者に記念楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、平成26年度に

創設したものです。世界水準の優れた研究業績を有し、今後更なる研究の進展が見込まれるとともに、本学の名誉を著しく高めることが期待できる本学の教員等へ称号を授与します。

なお、今年度称号を授与された方々は、以下のとおりです。

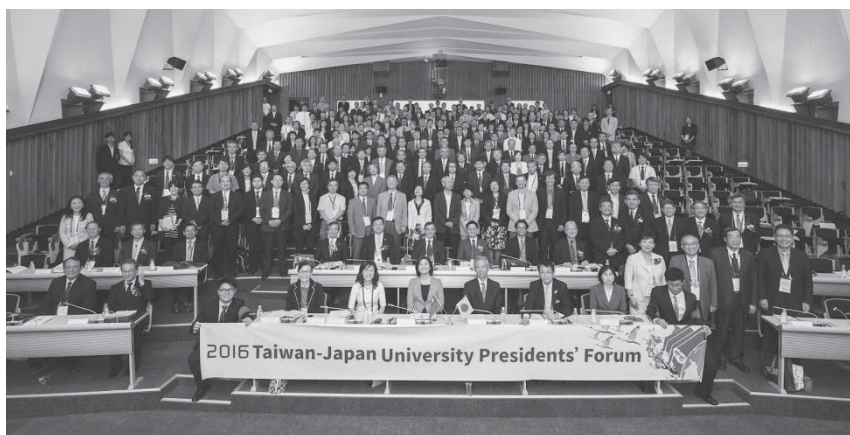
（総務企画部人事課）



授与式記念写真

所 属	職名	氏 名	授与期間
理学研究院	教授	澤村 正也	平成28年 4月1日～平成31年 3月31日
遺伝子病制御研究所	教授	藤田 恭之	平成28年 4月1日～平成31年 3月31日
国際連携研究教育局 (GI-CoRE)	特任教授	ジャンロバール ビット	平成28年 4月1日～平成29年 3月31日 ※授与期間更新
国際連携研究教育局 (GI-CoRE)	教授	コスタンティノ クレトン	平成28年 6月1日～平成31年 5月31日
国際連携研究教育局 (GI-CoRE)	招へい教員	マイケル ルビンスタイン	平成28年 6月1日～平成29年 3月31日

山口総長が台日大学学長フォーラムへ参加



フォーラム出席者の集合写真

山口佳三総長は、5月11日（水）・12日（木）に国立成功大学（台南市）で開催された台日大学学長フォーラムに参加しました。このフォーラムには、日本側、台湾側合わせて141大学の代表が参加し、大学のグローバル化をめぐる課題について情報交換が行われました。

山口総長は、フォーラムに参加した国立成功大学長をはじめとする台湾の大学の学長等と交流を行ったばかりでなく、この機会に、国立台湾大学と中央研究院を訪問し、相互理解を深めました。このうち、国立台湾大学では、Pan-Chyr Yangs学長と面会し、Bennett Fu国際担当副学長補佐、及び社会科学院、工学院、生農学院、経済学科それぞれの代表者の同席のもと、国立台湾大学と本学との間で、ダブル

ディグリーやコチュテルの締結に向けた議論を含む活発な交流が行われている状況が確認されるとともに、本学のHokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブのうち、特に新渡戸カレッジについて先方から大きな関心が示され、情報交換を行いました。また、同大学キャンパスにある、台湾蓬莱米の父と呼ばれ、台湾における米の品種改良等に大きな功績を残した本学（東北帝国大学農科大学）OBの磯永吉先生（1886-1972）を記念したIso Houseを見学し、同大学と本学との古くからの結びつきを再確認しました。中央研究院では、同研究院における大学院生等の教育やサステナビリティ等に関する取組状況について説明を受けるなど、同研究院との今後の交流推進に向けた情報を収集しました。

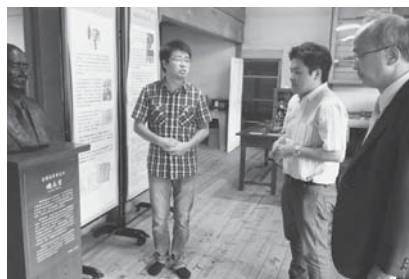
翌13日（金）には台北市内において、本学台湾同窓会の有志による歓迎会が開催され、山口総長を囲んで本場の台湾料理を楽しみながら、終始和やかな雰囲気となりました。山口総長からは、今後、台湾を含む海外の同窓生との連携を強化していきたい旨の発言があるなど、アンバサダー・パートナー制度等を活用した、在外の同窓生との連携強化に向けた意欲が示される一方、同窓会側からも多くの質問や提案が寄せられる等、同窓生の皆さんの本学に対する変わらぬ想いが伝わってきました。

次回の台日学長フォーラムは、2年後に広島大学で開催される予定です。

（国際本部国際企画課・国際連携課）



国立台湾大学 Yangs学長を表敬訪問



Iso Houseを見学する山口総長



歓迎会での同窓生との記念撮影

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	18,933件 3,220,140,578円
基金累計額（5月31日現在）	教職員の寄附率 37.0%（1,464件/3,962人）

5月のご寄附状況

法人等33社、個人248名の方々から85,992,344円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アクアジオテクノ、胃腸科・内科 吉田裕司クリニック、医療法人社団 我汝会 えにわ病院、遠藤興産株式会社、太田内科循環器クリニック、株式会社開発調査研究所、医療法人社団杏仁会 近内科クリニック、株式会社ジオテック、スワン アイクリニック、医療法人 千隆会、株式会社ダイヤコンサルタント北海道支社、ダクタリ動物病院、医療法人 寺嶋・塚田こどもクリニック、寺田医院、東邦オリビン工業株式会社、土木工学科71期卒業生有志一同、苫小牧埠頭株式会社、医療法人社団 康久会 中島産婦人科医院、中道リース株式会社、日生バイオ株式会社、柏楊印刷株式会社、日立GEニュークリア・エナジー株式会社、古江中野眼科、株式会社フロンティア技研、株式会社北洋銀行、一般社団法人北海道環境保全技術協会、株式会社マネージメント総研、室蘭こころのクリニック、野外科科学株式会社、株式会社レアックス、わたなべ整形外科

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	会田 敏光	青沼 美隆	浅井 禎之	浅野 賢二	安達 昌昭	阿部 誠	阿部島啓人
荒島真一郎	荒島眞理子	五十嵐康己	池田 明穂	石垣 省司	石川 裕一	石黒 正幸	石田多香子
石橋 輝雄	磯部 公一	井出 肇	伊藤 昭英	井上 猛	今井 希一	今村 昌耕	入澤 秀次
岩隈 勉	梅津 和広	江渡 政恵	江端 英隆	海老澤清也	遠藤 秀雄	遠藤 征子	大川 征治
大越 良記	大澤 忠	太田 祐司	大塚 仁美	大平 整爾	岡部 和憲	小木曾 俊	尾崎 威文
小内 透	小原 大和	埴山 雅秀	加賀屋誠一	葛西 真一	嘉手納成之	加藤 一裕	加藤 元
金川 眞行	鎌田 彰	蒲池 敦子	亀貝 一義	川上 博史	河口 義憲	河本 充司	岸 憲之
北谷 静一	木野 紀	木村 孝	木村 正博	草田 直之	國枝 保幸	倉見 知樹	黒田 輝夫
小濱 英司	小林 一久	小林 紀夫	小林 博	小柳 泉	近藤 健	齋藤 翔太	斉藤 久
佐伯 昇	阪田 達彦	坂本 三哉	櫻井 克信	櫻庭 衡	佐々木敦志	佐々木 純	笹本 洋一
佐藤 和彦	佐藤 雅夫	眞田 仁	澤野 眞二	澤村 淳	三升畑元基	芝野 努	渋谷 元
島津 孝	清水 伸一	清水 智之	城崎 昌彦	菅原 正行	杉元 紘一	鈴木 誠	鈴木 雅人
鈴木 学	鈴木 大和	角井 碧	諏訪 義雄	関本 信	瀬名波栄潤	園田 時男	高木 章好
高木 康里	高野不二人	高橋 正行	滝沢 優憲	竹内 祐一	武田 守正	武富 紹信	竹村 雅之
多田 直人	立野 正敏	田中 稲蔵	田中 俊一	田辺 福德	玉木 長良	丹野 元晴	千葉 隆昭
土屋 定之	土家 琢磨	寺澤 睦	百海 琢司	戸田 進康	豊田 健一	豊田 威信	直原 徹
中川 洋	長嶋 和郎	中根 明夫	中野 幸雄	中村 隆俊	中村 輝彦	中村 亮	西浦 博

西嶋 治	西野 邦男	野々村克也	長谷 潮	早川 佳邦	林 清次	林 卓司	久村 正也
兵頭 秀樹	平岡 満里	平山 恵美	平山 光久	廣井 基祥	弘田 博子	弘田 裕	深谷富久美
藤井 卓	藤井 義彦	藤田 仁	古川 善雄	法邑 正人	堀 信一郎	前川 隆	増山 邦彦
松崎 貞夫	松永 聖弘	松本 高志	的場光太郎	真鍋 邦彦	三浦 良一	水木 隆之	水口 和之
宮坂 茂男	宮田 康一	村井 玄乙	村上嶽四郎	村元 富夫	本谷 宣彦	矢野根至弘	山内 隆嗣
山岸 孝博	山下 雅人	山田 陸夫	山本 隆幸	山本 太郎	山本 裕己	吉尾 弘	吉田太久美
吉田 広志	吉村 誠治	吉村 俊彦	依田有二郎	劉 敏	和田 忠幸	渡邊伸一郎	

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(法人等)

株式会社アクアジオテクノ, 胃腸科・内科 吉田裕司クリニック, 医療法人社団 我汝会 えにわ病院, 医療法人 千隆会, 株式会社ダイヤコンサルタント北海道支社, ダクター動物病院, 東邦オリビン工業株式会社, 苦小牧埠頭株式会社, 中道リース株式会社, 日立GEニュークリア・エナジー株式会社, 古江中野眼科, 野外科学株式会社, 株式会社レアックス

(個人)

会田 敏光, 浅井 禎之, 荒島真一郎, 荒島真理子, 五十嵐康己, 石橋 輝雄, 伊藤 昭英, 今井 希一, 今村 昌耕, 遠藤 秀雄, 遠藤 征子, 北谷 静一, 小林 博, 小柳 泉, 近藤 健, 笹本 洋一, 澤村 淳, 島津 孝, 清水 伸一, 高木 章好, 武田 守正, 武富 紹信, 立野 正敏, 玉木 長良, 豊田 健一, 直原 徹, 長嶋 和郎, 中野 幸雄, 西浦 博, 野々村克也, 林 卓司, 久村 正也, 兵頭 秀樹, 平山 光久, 廣井 基祥, 弘田 博子, 弘田 裕, 古川 善雄, 的場光太郎, 村上嶽四郎

感謝状の贈呈



日本甜菜製糖株式会社 様 (平成28年5月20日)

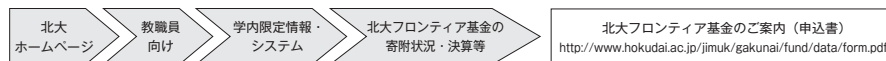


北海道ガス株式会社 様 (平成28年5月23日)

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

札幌キャンパスで第13回「キャンパス・クリーン・デー」を実施

全学一斉の構内清掃作業「キャンパス・クリーン・デー」を、5月9日（月）に実施しました。穏やかな晴天のなか、学生、教職員、構内工事関係者等ボランティアを含め、約3,500名の参加がありました。

事務局本部においては、はじめに山口佳三総長から「環境情報の発信による社会貢献を行う方針のもと、環境配慮への啓発活動として大学全体で実施しており、皆様のご協力をよろしく申し上げます」と挨拶があり、引き続き清掃作業を開始しました。キャンパス内で収集されたごみは分類毎に廃棄処分しています。

今年で13回目を迎えたキャンパス・

クリーン・デーは、札幌キャンパス内では一大行事として認知されており、今後も継続して行う予定です。来年以降につきましても、多くの方々に協力いただきますようお願いいたします。

環境に対する意識の向上及び皆様の

ご協力により、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）の収集量は減少しています。

ご協力ありがとうございました。

（施設部環境配慮促進課）



作業前、開催の挨拶をする山口総長



図書館周辺のごみ拾いをする教職員

新渡戸カレッジで対話プログラムを開始

新渡戸カレッジでは、平成27年度より、3年生以上のカレッジ生を対象に「対話プログラム」を行っています。本プログラムの目的は、カレッジ生がフェローとの一対一の対話を通して国際感覚等の経験を学び、リーダーシップの向上に役立てることです。4月23日（土）・24日（日）に開催した本年度最初のプログラムには、カレッジ生31名が参加し、フェロー16名と活発な対話を行いました。

23日（土）は、はじめにフェローの自己紹介プレゼンテーションが行われました。これまでの仕事や人生についてユーモアを交えて語るフェローに、カレッジ生は耳を傾け、活発に質問をしていました。その後の自由懇談では、

カレッジ生は関心をもったフェローを訪問し、リラックスした雰囲気の中で懇談を深めていました。カレッジ生からは、「フェローの人物や雰囲気など、事前に配布された資料だけではわからないと感じ取ることができた」「希望の話題についてどの方と対話をするのが良いか考える上で参考になった」等の感想が寄せられました。

24日（日）には、カレッジ生が希望のフェローと向き合い、チームの中で信頼される人間になるために何が必要か、また、学んだことを仕事や研究を通して社会に還元し貢献するために、今どんな意識をもって取り組むべきか等、事前に各自が設定したテーマを掘り下げ、発展させる形で対話を行いま

した。

本プログラムには、前年度から引き続き4年生も参加しました。フェローは、カレッジ生が対話を重ねる毎に思考力を深め、人間性が一回りも二回りも大きくなっていくのを感じているようでした。カレッジ生は、毎回対話内容を振り返り、フェローの助言や対話からの「気づき」などを記録することにより、今後のコミュニケーションスキルを高め、グローバル的視点からリーダーとしての自己研鑽に努力しています。

対話プログラムは、7月、11月、翌年1月にも行う予定です。

（学務部学務企画課）



ユーモアを交えて人生観を話す島田元生フェロー



フェローとの自由懇談



全体懇親会の様子

平成28年度新渡戸カレッジ入校式を挙行

5月14日（土）、高等教育推進機構大講堂にて、平成28年度の新渡戸カレッジ入校式を行いました。1年生182名、2年生82名が第4期カレッジ生として入校し、在校生424名とともに今年度の新渡戸カレッジがスタートしました。当日は様々な分野で活躍されているフェロー30名が駆けつけたほか、来賓として本学同窓生で元文部科学省研究振興局長の遠藤昭雄氏が出席されました。

最初に、新田孝彦新渡戸カレッジ校長代理から、全人教育の模範となり、現代に通じる新渡戸稲造の精神と、それを受け継ぐ新渡戸カレッジの特色について説明があり、「新渡戸カレッジはまだ完成されていません。このカレッジの伝統を、皆さん一人ひとりが夢をふくらませ、創り上げてください」とのメッセージがありました。次に、全フェローの紹介後、1・2年生を担当するフェローを代表して多田幸雄フェロー、林美香子フェローから祝辞をいただきました。多田フェローは、

「30年後、現在ある仕事はほとんどが不要になると言われていますが、そうした未知なる時代だからこそ、人間としての価値が問われます。人間力を磨き、生涯にわたって『自分は何をしたか』を追求してほしい」と話されました。林フェローは、リンカーンの「意志あるところに道は開ける」という言葉を実践してきた自らの経験を語り、「それぞれの道を見つけ、あきらめず、一歩を踏み出してください」と話されました。

引き続き、カレッジ役員、学部長の紹介があり、在校生祝辞として法学部3年生の藤谷和廣さんは、自分の価値観を絶対化せず、異なる価値観に出合った時にそれらを相対化し、判断するチャンスを新渡戸カレッジでつかんだ経験を語りました。新入生を代表して総合理系1年生の竹ヶ原謙さんからは、「開かれた場所である新渡戸カレッジで、利用できるものは徹底的に利用したい」と抱負が述べられました。その後、色々なプログラムに積極

的に取り組み、活躍したカレッジ生4名に、上田一郎新渡戸カレッジ校長代理より「新渡戸カレッジ奨励賞」が授与されました。

最後に、石山 喬新渡戸カレッジ副校長（北海道大学連合同窓会会長）から講話をいただきました。石山会長はカレッジ生に「入校おめでとう。カレッジで学ぶ覚悟はできていますか」と語りかけ、「『世界の平和と安定に貢献できる人』を目指し、フェローの豊富な経験から大いに学んでほしい。そして、勉強だけでなく、スポーツや芸術、色々なことに興味をもって頑張ってください」と締めくくられました。また、東京での連合同窓会の活動や、海外インターンシップなどの取り組みについても紹介がありました。

入校式は、多くの方々のお祝いや熱いメッセージにあふれ、新カレッジ生にとって、新たな決意と自覚を深める時間となりました。

（学務部学務企画課）



入校式の様子



多田フェローによる祝辞



林フェローによる祝辞



新渡戸カレッジ奨励賞の表彰



石山副校長による講話

新渡戸カレッジ5月学内合宿を実施

5月14日（土）、新渡戸カレッジ入校式に引き続き、学内合宿を実施しました。

合宿前半の最初のプログラムは、文学研究科の弐和順教授による「新渡戸稲造に学ぶ」と題した基調講演でした。新渡戸稲造の生涯、代表作『武士道』が書かれた目的、『武士道』から我々が何を学ぶべきかなどについて、弐教授の深い見解をもとに話題が展開し、「カレッジ生の皆さんには新渡戸が示した『先義後利』を肝に銘じていただきたい。皆さんの将来に期待しています」と話がありました。

次に、山口淳二新渡戸カレッジ副校長より、「新渡戸カレッジで学ぶとは」をテーマに講話が行われ、「新渡戸カレッジが目指すもの」がわかりやすく示され、グローバルリーダー育成のための教育方針や仕組み等の説明がありました。山口副校長は、「私たちは皆さんを新渡戸カレッジのコミュニティに招待します。リーダーとして新たな自分を見つけることができる教育環境を生かすかどうかは皆さん次第。多くの行事に積極的に参加し、多くの『気づき』をもらってください」とのメッセージを伝えました。

引き続き、カレッジ2年目の学生2名から、カレッジでの学びについて経験が語られました。文学部2年の土尾聖里菜さんは、この1年で自分がどう変わったのかを説明し、国際交流科目を履修したことで、積極的に学び、自

分の意見を述べるができるようになり、さらに短期の海外体験をする授業であるFSPで自分の学びたいことを発見できたことなどを述べました。農学部2年の川辺晃太郎さんは、主にカレッジの行事について話し、グループ・ミーティングの魅力や、学外の視察などで得られたことなど、具体的な感想とともに、今年から始まるフェローゼミへのアドバイスもしました。

その後、国際本部の玉城英彦特任教授より「留学に向けて」と題して、「なぜ留学するのか」といった基本的な考え方や、多文化、他宗教、他の歴史などを理解するには、偏見にとらわれず、心をまっさらにして飛び込む留学が重要であることなどが語られました。また、法学部3年の藤谷和廣さんと、理学部4年の中谷操希さんからは留学の体験談が話され、実感がこもった体験内容や具体的なアドバイスに、カレッジ生は多くの刺激を受けていました。

合宿後半は1・2年生を対象に「第1回グループ・ミーティング」を実施し、担当フェローごとに教室に分かれて話し合いが行われました。ミーティングでの1年生の目標は、「自分の立てたカレッジでの学びの計画について話し合い、多様な視点に立って見直す」「他の学生との交流を通じて人々の多様性を認識する」「先輩の経験から学びながら、自分は大学で何を学び将来何をしたいのかを考える」ことの3点

です。2年生の目標は、現代社会の様々な問題について、フェローや他の学生と議論することを通して考えることです。

3・4年生も担当フェローごとに分かれて「新渡戸キャリア・セミナー」を行いました。このセミナーは、カレッジ生が自らの目標を設定し、達成する力を磨く機会として設定し、自立的な学びと成長を支援することが目的です。はじめにフェローの紹介と講話などがあり、グループごとの話し合いを行った後、グループ代表から報告を行い、フェローを交えて全員で意見交換を行いました。自分について話せるように事前準備を行っていたこともあり、積極的な意見が交わされました。

カレッジ生にとって、フェローと直接対話し、様々な質問をしたり、アドバイスを受けたりできる「グループ・ミーティング」や「新渡戸キャリア・セミナー」は新渡戸カレッジの学びの根幹となる重要な機会です。カレッジ生はそれぞれの思いをフェローにぶつけ、フェローの方も熱心に対応してくださいました。また、プログラム終了後は、会場を北部食堂に移して、カレッジ生とフェローの懇親会を開催し、和やかな雰囲気ですらに楽しい交流が続きました。

（学務部学務企画課）



新渡戸カレッジ体験談を話す学生



グループミーティングの様子



フェローと懇談する学生たち

平成28年度新渡戸スクール入校式を挙行

大学院特別教育プログラム新渡戸スクールの入校式を、5月14日（土）、高等教育推進機構N1講義室にて行いました。

新渡戸スクール第2期生の募集は4月に行われ、17研究科・学院等から89名の入学希望者があり、厳正な選考の結果、81名を選抜し、そのうち78名が入校しました。

入校式には、新田孝彦新渡戸スクール校長代理（理事・副学長）、石山喬北海道大学連合同窓会会長（日本軽金属ホールディングス株式会社代表取締役会長）、安成哲平メンター（工学

研究院助教）をはじめ、理事、副学長、研究科長・学院長等が出席するとともに、新渡戸スクール入校生が参加しました。

入校式では、はじめに新田校長代理から、新渡戸スクール入校生の新渡戸スクールにおける学びが有意義なものとなること、さらに、新渡戸スクールにおける経験をもとに、本学と世界をつなぐネットワークのハブとなり、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを願う、との挨拶がありました。

次に、来賓の石山連合同窓会会長か

ら、「グローバル化した社会においてスクール生がリーダーとして活躍することを期待する」との激励メッセージをいただきました。

続いて、安成工学研究院助教から、メンター講演として、「新渡戸スクールに期待すること」と題して、スクール生がそれぞれのフィールドにおいてグローバルに活躍するための心構え等について講演がありました。

（学務部学務企画課）



新田新渡戸スクール校長代理による挨拶



石山北海道大学連合同窓会会長による来賓挨拶



安成工学研究院助教によるメンター講演

「製薬企業等6社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開催

産学・地域協働推進機構は、5月11日（水）に北海道大学病院臨床研究棟大会議室において、北海道大学病院臨床研究開発センター及び大学力強化推進本部医療・創薬科学プラットフォームと共同で「製薬企業等6社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開催しました。

製薬企業等が実施している創薬研究助成・共同研究公募事業の内容について、日本ポール株式会社、ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社、武田薬品工業株式会社、ファイザー株式会社、大日本住友製薬株式会社、第一三共株

式会社の各担当者から説明いただいた後、個別相談会を実施しました。

説明会には約40名の来場者があり、説明会終了後に開催した個別相談会では活発な意見交換がなされ、大変盛況な会となりました。

産学・地域協働推進機構では、今後も創薬研究助成・共同研究公募事業に関する情報提供の機会を設けていきたいと思っております。興味のある方は積極的にご参加ください。

（産学・地域協働推進機構）



説明会の様子

北大発ベンチャー称号記授与式を挙

6月3日(金)、百年記念会館大会議室にて「北大発ベンチャー称号記」の授与式を挙、北大発ベンチャー認定制度発足後初めての認定企業に対し、称号記が贈られました。

この認定制度は、本学の研究シーズの実用化を加速することにより、日本経済、地域経済への貢献を行っていくことを目的として、昨年秋に発足した制度です。本学の知的財産を活用したり、学生や職員が深く関与して設立した企業を認定することにより、本学の職員及び学生のモチベーションを高め、研究・教育の一層のレベルアップを推進しようというものです。

当日は、山口佳三総長から「大学発

ベンチャーの創設は、大学の成果を活用した社会貢献の大変重要な在り方の一つ。北大発ベンチャー企業とともに北海道大学がさらに成長・発展し、社会に貢献していく決意を新たにす」との挨拶の後、第1回認定の9社に称号記の授与を行いました。

授与式後に開催された連絡会議には、認定企業と本学関係者計20名が参加し、ベンチャー企業の成長の加速について活発な意見交換が行われました。

◆認定企業一覧

<http://www.mcip.hokudai.ac.jp/startup/venturelist.html>

(産学・地域協働推進機構)



北大発ベンチャー認定制度パンフレット



山口総長の挨拶



記念撮影の様子



連絡会議での意見交換の様子

「学習への動機づけを行う授業スキル」ワークショップを開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教職員に対するFDの一環として、5月13日(金)に高等教育推進機構S3講義室において「学習への動機づけを行う授業スキル」ワークショップを実施しました。

本ワークショップは、学生の主体的な学習を促すための手法や学習への動機づけを行うために教員が行うことのできる授業スキルを学び、身につけることを目的として実施したもので、本学教員11名、道内他大学の教員5名の計16名が参加しました。

ワークショップは、高等教育研修センターの山本堅一特任准教授を講師として、授業の始めと授業中に学生の主体的な学習を促すことのできる教授法

や教員の言動、学生とのやりとりの仕方等について、講師と参加者がインタラクティブに学んでいく形式で進められました。

事後アンケートでは、「授業の組み立て方、進め方を体系的に学ぶことができた」「スライドの使用方法や、クリッカー(それに準じるもの)の効果

的な使用について、考え直すことができて良かった」等、多くの方に好評でした。

本センターでは、今後も既存のFDに加えて、新しい研修を開催する予定です。積極的にご参加願います。

(高等教育推進機構)



研修の様子

新任教員向け研修「知って活用したい北大の諸制度」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、5月20日（金）に本学に着任して5年以内の教員（以下、新任教員）を対象とし、新任教員向け研修「知って活用したい北大の諸制度」を開催しました。

本研修は、新任教員が知っておくべき学内の主な教育・研究施設、制度について、利用方法・活用方法を学ぶことを目的に実施したもので、本学の新任教員36名が参加しました。

開催にあたり、細川敏幸副センター長から挨拶があった後、高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター職員により「ELMSを活用した授業方法について」と題して、ELMSの概要と授業での活用方法について研修が行われた後、事務局職員から「出張申請及び物品購入について」と題した研修が行われました。

次に、会場を北図書館に移し、図書館職員から「教育・研究に役立つ図書館の活用法について」、URAステーションの和田肖子URAから「URAが行う教育支援」、産学・地域協働推進機構の鈴木真也産学協働チーフマネージャーから「知財制度と学内ルール」、オープンエデュケーションセンター職員から「授業におけるオープンエデュケーションの活用」、事務局職員から「研究表彰制度・教育表彰制度」と題

した研修が行われました。

短時間で様々な施設、制度等の紹介があり、今後は各教員が調べたり、関係する研修会に参加するなどにより、さらに詳しく知っていただくことを期待しています。新任教員にとって本学の諸制度について知るきっかけとなる良い1日になったことと思います。

（高等教育推進機構）



研修の様子

「クリッカーの使い方入門」研修を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教員に対するFDの一環として、4月22日（金）、5月26日（木）に「クリッカーの使い方入門」研修を実施しました。

クリッカーは、PowerPointのスライド内に多肢選択問題を作成し、学生はレスポンスカードの番号を押すことで回答を行い、結果が瞬時に集計されてスライド上に表示されるシステムとなっており、インタラクティブな授業を実施する一つの手法として注目され

ています。本研修は、クリッカーを授業で使用することで、学生の学びを促進する方法について学び、実際の使用方法を身につけることを目的に開催し、本学教員19名、道内他大学等の教員9名が参加しました。

4月22日（金）には理系教員、5月26日（木）には文系教員を対象に、それぞれ高等教育推進機構の山田邦雅准教授、山本堅一特任准教授を講師として、講演及びワークショップが行われました。

事後アンケートでは、「実際の操作を経験できて良かった」「設問の作り方などが特にためになった」等の意見が見られ、多くの参加者に好評でした。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催する予定ですので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



研修の様子

ワークショップ「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教職員に対するFDの一環として、5月27日（金）に高等教育推進機構S5講義室において、ワークショップ「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」を実施しました。

本ワークショップは、大学教育プログラムの研究及び教育システムや教授法の開発を行っている高知大学大学教育創造センターの杉田郁代特任准教授を講師にお招きし、効果的なグループワークを導入するために教員が身につけておきたいファシリテーションについて、教育心理学の観点から学び、身につけることを目的として実施したもので、本学教職員22名、他大学等の教職員8名が参加しました。

開催にあたり、細川敏幸副センター

長から挨拶があった後、ワークショップが行われ、講師の杉田特任准教授から、グループワークを導入する際に教員が心がける点について、教育心理学の観点から説明があり、学習を促進するためのいくつかの手法が紹介され、参加者はそれらをグループ学習で体験しながら学びました。

事後アンケートでは、「明日にでも使える」技法について学ぶことができた」「理論的な背景も聴くことができた」等の意見が見られ、多くの参加者に好評でした。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催する予定ですので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



研修を行う杉田特任准教授



研修の様子

「21世紀の超スマート社会に関するフォーラム」を開催

5月16日（月）・17日（火）に、ビッグデータとサイバーセキュリティに関わる日米の大学・企業間連携に関する公開討論会「21世紀の超スマート社会に関するフォーラム：日米コンピュータショナル・プラットフォームの創設」を開催しました。

山口佳三総長からの開会挨拶に続き、土屋定之文部科学省事務次官、星野岳穂経済産業省大臣官房審議官、山谷吉宏北海道副知事の来賓挨拶が行われ、フォーラムが開幕しました。

新しい社会構造への急激な変革期に中核をなすデジタル化について、産学官連携を持続的に進めるエコシステム

の構築が不可欠です。本学では国際連携研究教育局（GI-CoRE）内に、同分野に特化したビッグデータ・サイバーセキュリティを研究するグローバルステーションを立ち上げて国際連携を進めており、産学・地域協働推進機構では研究成果の社会実装に向けた産学・地域の連携体制を構築してきました。

フォーラムでは、マサチューセッツ大学アマースト校、オハイオ州立大学、米国科学アカデミー、在札幌米国総領事館、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学や、東北大学、九州大学、慶應義塾大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、株式会社日立製作所、富士

通株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、武田アンド・アソシエイツといった国内外の大学・企業・団体から、異なる視点による国際産学連携に係る講演・挨拶があり、一般公開の産学連携セミナーでのパネルディスカッション、非公開形式のラウンドテーブル・ディスカッションへと繋げ、現状理解と産学連携エコシステムの必要性を再認識し、更なる協力を約束する機会となりました。

（国際連携研究教育局）



土屋文部科学省事務次官からの挨拶



産学連携セミナーのパネルディスカッション



ラウンドテーブル参加者

■ 部局ニュース

水産科学館水産生物標本館の竣工式を挙行

函館キャンパスにある総合博物館分館の水産科学館水産生物標本館の建物（昭和35年建造）は、老朽化に伴い平成27年度に建替えられました。新しい水産生物標本館は地上1階建てで、全面に移動棚を設置し、標本館内には、教員室、コンピュータ室と作業室を併設しています。この建替えによって標本の収容能力は大幅に増え、標本の管理・利用がとても効率的で便利になりました。水産生物標本館には世界中から集められた魚類標本約23万点、プランクトン標本約33,000点、海産無脊椎動物標本約4,000点が保管されています。そのコレクションの中には新種を

記載した際に基となった標本（タイプ標本）が約1,200点含まれています。これらの標本は北海道大学総合博物館のコレクションとして、学内の研究者・学生だけでなく、世界中の研究者に利用されています。

水産科学館水産生物標本館の竣工式の記念式典は、5月20日（金）に水産科学館別館で行われました。式典には総合博物館関係者と水産科学研究所の職員が参加しました。式典では総合博物館の中川光弘館長の挨拶の後に、水産科学研究所の安井 肇研究院長と前水産科学館長の矢部 衛特任教授から祝辞が述べられました。水産科学館の

今村 央館長の挨拶の後に水産生物標本館に移動し、中川館長、今村館長、宮下和夫水産科学研究所副研究院長、矢部前館長によるテープカットが行われました。その後、河合俊郎助教の案内による標本館の内覧会が行われました。夕方からは、会場を水産科学研究所のマリンサイエンス創成研究棟に移して、祝賀会が開催されました。祝賀会は中川館長の開宴挨拶、今村館長の挨拶と祝杯で始まり、1時間半ほどの祝宴の後に、矢部前館長の乾杯で閉宴となりました。

（総合博物館）



記念式典での中川館長の挨拶



テープカットの様子（左から、矢部前館長、宮下副研究院長、中川館長、今村館長）



内覧会の様子



祝賀会の様子

北極域研究センターで北極域研究共同推進拠点開設記念講演会・記念シンポジウムを開催

5月20日（金）に、北極域研究共同推進拠点開設記念講演会「北極域研究の推進－異分野連携による革新的展開－」をフード&メディカルイノベーション国際拠点棟多目的ホールで開催し、産学官から110名を超える出席者がありました。

北極域研究共同推進拠点は、本学、大学共同利用機関法人国立極地研究所、国立研究開発法人海洋研究開発機構の3機関が運営する国内で初めての連携ネットワーク型拠点で、本年4月に開設しました。

記念講演会は、齊藤誠一北極域研究センター長の開催挨拶と拠点概要説明、白間竜一郎文部科学省研究開発局審議官、長澤仁志日本経済団体連合会海洋開発推進委員会総合部会長（日本郵船株式会社専務経営委員）の祝辞の後、山口佳三総長、白石和行国立極地研究所長、平朝彦海洋研究開発機構理事長から拠点運営に関して挨拶がありました。

引き続き、Hajo Eikenアラスカ大学

国際北極圏研究センター長から「急激な北極の変化への対応：国際協力の機会とその必要性」、Thomas Spenglerベルゲン大学地球物理学研究所教授から「北極圏における大気・海洋・海水相互作用：ビヤルクネス気候研究所における研究と協力体制」、杉本敦子北極域研究センター教授から「ロシアサハ共和国における共同研究と社会との協働の取り組み」の3件の基調講演が行われました。

後半は、「北極域研究共同推進拠点に何を期待するか？－産官の視点から－」と題してパネルディスカッションを実施しました。田畑伸一郎スラブ・ユーラシア研究センター長がモデレーターとなり、北海道経済連合会、北海道銀行、北海道総合政策部、国土交通省北海道開発局、経済産業省北海道経済産業局、GEBSCO（海底地形総図）指導委員会、東洋建設株式会社及び、拠点を運営する3機関のパネリストにより、北極海航路や中小企業によるものづくり等の産学官連携、ロシア

との国際連携など、北極域に関する話題について活発な議論に加え、異分野や異業種間の貴重な情報交換等が行われました。最後に、白間審議官より本拠点に対する期待と要望が述べられました。

講演会終了後、会場をファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルクに移し、記念レセプションが行われました。

21日（土）には、記念シンポジウムを開催しました。「北極海の環境・生態系とそれを巻き巻く社会状況」「北極陸域の環境・生態系と社会の変化」「グリーンランドにおける氷河氷床変動と地域社会への影響」の3つのセッションが行われ、自然科学から人文社会科学に及ぶ計12件の発表があり、本拠点の目指す異分野連携の話題が網羅された活発な議論が行われました。

（北極域研究センター）



記念講演会：開会の様子



記念講演会：祝辞を述べる白間審議官



記念講演会：祝辞を述べる長澤氏



記念講演会：山口総長の挨拶



記念講演会：パネルディスカッション



記念シンポジウム：研究発表の様子

函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施

5月18日（水）に、函館キャンパスにおいて「春のキャンパス一斉清掃」を実施し、学生・教職員を合わせて約200名が参加しました。当日は晴天にも恵まれ、絶好の清掃日和となり、函館キャンパス構内とその周辺の清掃を行い、大変きれいになりました。

収集されたごみ等は、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）、木の枝等を合わせて4㎡となりました。

函館キャンパスでは毎年、春と秋に年2回、「キャンパス一斉清掃」を行っており、今回は9月中旬を予定し

ています。

これからも環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



清掃を行う学生



清掃を行う職員



協力し合いながらの清掃作業

工学研究院でトヨタ自動車株式会社代表取締役副社長による特別講演会を開催

工学研究院では、5月13日（金）に鈴木章ホールにおいて、工学系キャリアガイダンスの一環として、トヨタ自動車株式会社の加藤光久代表取締役副社長による講演会を開催しました。

加藤副社長は工学部機械工学科の卒業生であり、「持続可能な社会の実現に向けたトヨタのチャレンジ」と題した講演に、360名を超える参加者が興味深く聞き入りました。同社は「トヨタ

環境チャレンジ2050」と称して、2050年までに新車の走行時のCO₂排出量を2010年比で90%削減する、などの長期目標を掲げており、燃料電池自動車「ミライ」もこの一環です。水素は様々な方法で製造可能、貯蔵し易い、加えてエネルギーの地産地消において最も有望な選択肢の一つとの考えが説明され、将来の社会づくりに真摯に取り組んでいるトヨタ自動車の思想が伝

わりました。

最後に学生へのメッセージとして、北大の素晴らしさ、大学生活における様々な経験はいずれも無駄ではなかったこととお話いただき、盛会裡に終了しました。

（工学院・工学研究院・工学部）



トヨタ自動車株式会社代表取締役副社長 加藤氏



講演会の様子

教育学院・教育学研究院・教育学部FD研修 「障害者差別解消法に係る本学の取り組みについて」を実施

6月3日（金），教育学部会議室において，「障害者差別解消法に係る本学の取り組みについて」と題するFD研修を開催し，教職員36人が参加しました。

今回は講師として，高等教育推進機構特別修学支援室専任教員の伊藤康弘准教授を招き，本年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進

に関する法律（障害者差別解消法）」について，本法の概要をはじめ同法施行を踏まえ，本学での取り組みについて分かり易く，かつ内容の濃い講演が行われました。

特に今後，国立大学法人として行うべき法的「義務」と「努力義務」の関係性や「合理的配慮」と「基礎的環境整備」に係る対応方法など具体的な示

唆があり，参加者の関心が高いものとなりました。

短い時間でしたが，講演後の質疑応答の中では活発な意見交換が行われ，大変有意義な研修となりました。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）



開会の挨拶をする小内 透学院長



伊藤准教授による講演



質疑応答の様子

獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催

5月11日（水），獣医学部4～6年生を中心に，本学部・研究科の学生を対象とした「地方自治体等合同就職説明会」を，獣医学部主催で開催しました。本説明会は，地方自治体等の獣医師職を目指す本学部・研究科の学生へ円滑に情報を提供することを目的とし，地方自治体等が個別に来学し実施

していた説明会を集約して，平成23年度より開催しているものです。

本年度で6度目の実施であり，今回は全国各地から過去最高の計31の地方自治体・団体の出席をいただきました。当日は学部4～6年生の授業を休講にしたこともあり，学部3年生から博士課程4年生まで54名の学生が個別ブー

スで熱心に説明を受けました。参加自治体等にも大変好評で，来年以降も実施してほしいとの要望を受けました。

今後も，より一層キャリア支援体制の充実・強化を図るため，実施内容等について改めて検討していく予定です。

（獣医学研究科・獣医学部）



熱心に説明を受ける学生

獣医学研究科寄附講座「獣医学専攻診断病理学講座」感謝状贈呈式の開催

獣医学研究科は、5月26日（木）、獣医学研究科長室において寄附講座「獣医学専攻診断病理学講座」感謝状贈呈式を開催し、稲葉 睦研究科長から、有限会社ノースベッツの賀川由美子代表取締役社長へ感謝状を贈呈しました。

獣医学専攻診断病理学講座は、平成26年度に設置され、臨床現場に密着した病理組織診断及び細胞診断技術の確立、並びに獣医診断病理学の認定医を目指す研修医の教育拠点の構築を目的に、研究活動に取り組んでまいりました。比較病理学教室の木村享史教授の指導の下、客員教授1名、特任助教1名、技術補佐員1名の体制で2年間に

わたり活動し、本年3月で設置期間の満了を迎え、これまで同講座に多大なる支援をいただいた有限会社ノースベッツに感謝状を贈呈しました。

稲葉研究科長は謝辞の中で「獣医学専攻診断病理学講座を支援していただき、研究の推進、病理診断学の発展、人材育成に多大なるご尽力をいただいた」と深く感謝の意を表すとともに、「今後も診断病理学の発展のために協力していきたい」と述べた後、同講座で特任助教を務めた石崎禎太氏、昆泰寛評議員、木村教授と記念撮影を行いました。

（獣医学研究科・獣医学部）



稲葉研究科長から感謝状の授与



左から昆評議員、稲葉研究科長、賀川氏、石崎氏、木村教授

国際広報メディア・観光学院が中国 安徽大学において「日中メディア文化研究ワークショップ」を開催

国際広報・メディア観光学院メディア文化論講座は、5月13日（金）・14日（土）に、合肥市の安徽大学新聞伝播学院で、学术交流と国際ワークショップを行いました。

13日（金）は、姜紅学院長の案内のもと、メディア実習室、世論調査室等を見学しました。

14日（土）はワークショップを行いました。テーマは「日中のメディア文化」であり、安徽大学がメディア文化課程を博士課程に新設したことと連動するものです。最初に、安徽大学副学長の王群京先生にご挨拶いただき、本学の西村龍一教授が札幌、北大、国際広報メディア・観光学院についての紹介を行いました。引き続き、本学側の

3名、安徽大学側から3名のパネリストが発表を行い、その後、会場からの質問に答える形で質疑応答を行いました。ワークショップには50人ほどが参加し、参加者は熱心に発表に聞き入っていました。休憩時間には、本学の学生と安徽大学の学生が交流する様子も見受けられました。



安徽大学創立碑の前での記念撮影

今後も安徽大学新聞伝播学院との交流が継続し、共同研究や交換留学など多くの成果が生まれることが期待されます。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



ワークショップの様子

北方生物圏フィールド科学センターで「植物販売会」を開催

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、北大祭の開催に合わせて6月2日（木）・3日（金）に植物の販売を行いました。

2日間とも肌寒いあいにくの天気でしたが、販売開始時間前には120名ほどの行列ができ、各日1時間のみ販売で、2日間合わせて約600名のお客様が来場されました。今年は花（26種類）、ハーブ苗（18種類）、野菜苗

（18種類）の他に薬学部薬草園の観葉植物（10種類）も販売し、売り切れになる種類が多数ありました。来場者からは「北大の苗は丈夫で育てやすいのに、安く買えるので毎年楽しみに来ています」「学生さんに丁寧に育て方を教えてもらい、とても勉強になりました。頑張ってます」という声が聞かれました。

生物生産研究農場では、体験的な農

場実習のカリキュラムの中で、農産物の販売を視野に入れた草花ハーブ苗の育成をプログラムに取り入れていきます。農場ではこうして育成した苗を実際に販売することによって、農場の教育・研究活動を知っていただき、学内の方々と交流を進めたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



販売開始を待つ来場者



販売会場の様子



観葉植物売場の様子



袋詰め担当の学生スタッフ

看護週間ー「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施

毎年5月12日（ナイチンゲール生誕日）を含む1週間は「看護週間」として制定されています。今年も本院では、看護の重要性について理解を深めようと様々な催しを行いました。

5月11日（水）にはふれあい看護体験が行われ、札幌市内及び近郊の高校生が看護師とともに、病棟や外来で実際の看護業務を体験しました。

同日夜には病院アムニティホールにて、「第26回看護の日の夕べ」が、秋田弘俊副院長の挨拶で開会し、札幌市立北辰中学校による合唱が行われました。誰もが知っている曲が演目となっており、スタジオジブリの主題歌メドレーでは生徒たちによる振り付けを交えた合唱が披露される等、会場に活気があふれました。盛況の中、「第26回看護の日の夕べ」は、佐藤ひとみ看護部長の挨拶で幕を閉じました。このミニコンサートの様子は、本院アムニティホールに設置されたライブカメラを通じて、病室の無料チャンネルでテレビ放映されました。

看護週間である5月11日（水）から17日（火）までの間、1階アムニティホールにて各ナースステーション・センター紹介や、本院の災害に対する準備のポスター展示を行い、医科外来ホールでは看護・くすり・栄養・歯の衛生・運動療法等の相談コーナーを設置しました。

置しました。

看護週間にちなんだ催しは、今年で26回目を数えますが、「看護」という言葉のもつ重さを再認識する貴重な機会として定着しています。

（北海道大学病院）



開会の挨拶をする秋田副院長



札幌市立北辰中学校による合唱



閉会の挨拶をする佐藤看護部長



看護相談コーナー

北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流

病気と闘う子どもたちを勇気づけるため、北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督と選手によるひまわり分校訪問が、5月30日（月）に行われました。

ひまわり分校への訪問は院内学級時代を通じて10回目を数え、毎年、入院中の子どもたちが大変楽しみにしているイベントです。今年も、栗山監督のほか、増井浩俊選手、谷口雄也選手、高梨裕稔選手、井口和朋選手の5名が

来院されました。

監督と選手は、はじめに寶金清博病院長を訪問され、寶金病院長からは「毎年、子どもたちはもちろん、親御さんも大変励まされています」との挨拶がありました。

次に本院6階の運動療法室で、ひまわり分校の子どもたちからのインタビューやキャッチボールなどを通して交流を深めました。交流を終えた栗山監督からは、「僕たちが逆に元気をも

らいました」との言葉がありました。また、病室から出られない子どもたちのために、小児科病棟に足を運び、監督と選手が病室を1室ずつ回って励ましました。子どもたちはベッドサイドやナースステーション前で一緒に写真を撮るなど、つかの間の楽しいひと時を過ごしました。

（北海道大学病院）



寶金病院長を訪問



子どもたちからのインタビュー



屋内運動施設でキャッチボール

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成28年 5月17日）

- 協議事項・Integrated Science Programの設置構想について
- ・Integrated Science Program（学士課程）に受け入れる外国人留学生に係る検定料について
- 報告事項・総長の業績評価の方法及び次期総長の任期等について
- ・超過勤務実績について
 - ・平成28年度会計監査人候補者の選定について
 - ・会計検査院第5局による会計実地検査の実施について
-

教育研究評議会（平成28年 5月25日）

- 議 題・経営協議会の学外委員について
- 報告事項・総長の業績評価の方法及び次期総長の任期等について
- ・北海道大学校友会エルムの設立について
 - ・北海道大学緑のピアガーデン2016について
-

役員会（平成28年 5月30日）

- 議 案・平成28年度内部統制システムモニタリングテーマ候補について
- ・留学生宿舎の新規借入について
- 協議事項・平成29年度概算要求事項について
- ・平成27年度決算について
- 報告事項・平成27年度資金の運用状況について
- ・平成27年度病院収支の概要について
-

経営協議会（平成28年 6月 3日）

- 議 題・総長選考会議委員の選出について
- ・Integrated Science Program（学士課程）に受け入れる外国人留学生に係る検定料について
 - ・平成27年度決算について
 - ・平成29年度概算要求事項について
- 報告事項・平成27年度実施大学機関別認証評価の評価結果について
- ・産学・地域連携の活動状況について
 - ・役職員の給与について
 - ・平成27年度北海道大学ファクトブックについて
-

■ 研修

平成28年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修

開催期間：平成28年6月1日～3日

開催場所：北海道大学事務局大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の会計事務に従事して間もない職員等に対し、国立大学法人（独立行政法人）会計基準、同注解及び実務指針に係る知識を習得させることを目的とする。



監査法人による講義



受講の様子



荒川 強財務管理室長による講義



修了証書を授与される受講生

(財務部主計課)

表敬訪問

国内

年月日	来訪者
28.6.22	北海道労働局長 田中 敏章 氏



北海道労働局長 田中 敏章 氏（左側）

（総務企画部広報課）

海外

年月日	来訪者	来訪目的
28.5.25	厦門大学（中国）Yan Zhang 理事長	両大学の交流に関する懇談
28.5.27	Ndiyoi Mutiti 駐日ザンビア共和国大使	両国の交流に関する懇談
28.5.30	ベルゲン大学（ノルウェー）Anne-Christine Johannessen 副学長	両大学の交流に関する懇談



厦門大学（中国）
Yan Zhang 理事長（前列中央左）



Ndiyoi Mutiti 駐日ザンビア共和国大使（前列左）



ベルゲン大学（ノルウェー）
Anne-Christine Johannessen 副学長
（左側手前から3人目）

（国際本部国際連携課）

■人事

平成28年5月8日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	三田村 卓	北海道大学病院助教

平成28年5月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 国際本部助教	PETTITT ALEXANDER ROBERT	採用
【技術職員等】 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師	菅 野 亮 太 豊 田 梓 乃 野 表 知 世 山 岡 怜 央	北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手

平成28年5月18日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 遺伝子病制御研究所	櫻 井 希	採用

平成28年5月22日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成30年5月21日まで)	五十幡 玲 子	株式会社インテグラル代表取締役

平成28年5月25日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 北海道大学病院薬剤部薬剤師	高 桑 志 帆	北海道大学病院薬剤部薬剤助手

平成28年5月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	横 田 正 司	大学院医学研究科助教
【技術職員等】 (辞職)	大 島 千 京 西 田 由 紀 子	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

平成28年6月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授	HOURDET DOMINIQUE CRETON COSTANTINO	採用 採用
【准教授】 大学院医学研究科准教授 大学院歯学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 国際連携研究教育局准教授 国際連携研究教育局准教授 国際連携研究教育局准教授	山 崎 美和子 大 廣 洋 一 富 岡 克 広 NARITA TETSUHARU HONG WEI LINDNER ANKE	大学院医学研究科講師 大学院歯学研究科講師 大学院情報科学研究科助教 採用 採用 採用
【講師】 北海道大学病院講師 北海道大学病院講師	足 利 雄 一 工 藤 俊 彦	大学院歯学研究科助教 採用
【助教】 大学院歯学研究科助教 大学院獣医学研究科助教 大学院保健科学研究院助教 北海道大学病院助教 国際本部助教 国際連携研究教育局助教 国際連携研究教育局助教	栗 林 和 代 小 林 進太郎 櫻 井 俊 宏 格 口 涉 ARTEAGA ARTEAGA FERNANDO SALEZ THOMAS BLAISE MARCELLAN ALBA	北海道大学病院助教 採用 採用 採用 採用 採用 採用
【専門職 (学術)】 (辞職)	須 佐 太 樹	産学・地域協働推進機構学術主任専門職
【技術職員等】 大学院獣医学研究科	板 宗 克	採用

新任教授紹介

平成28年6月1日付



国際連携研究教育局教授に

ドミニク ウルデ
Dominique Hourdet 氏

ソフトマターグローバルステーション

生年月日

1961年1月7日

最終学歴

ピエール・エ・マリーキュリー大学博士課程修了 (1989年5月)
 博士 (ポリマー化学, 物理化学) (ピエール・エ・マリーキュリー大学)
 同大学博士課程学生指導資格修了 (2000年1月)

専門分野

高分子化学, 物理化学



国際連携研究教育局教授に

コスタンティノ クレトン
Costantino Creton 氏

ソフトマターグローバルステーション

生年月日

1962年9月18日

最終学歴

コーネル大学大学院博士課程修了 (1991年1月)
 博士 (材料科学) (コーネル大学)

専門分野

ソフトマター, 材料科学

訃報

名誉教授 ささや たかし 笹谷 宜志 氏
(享年85歳)



名誉教授 笹谷宜志先生が平成28年3月13日に逝去されました。先生は昭和30年北海道大学農学部林産学科を卒業、同36年同大学院農学研究科林産学専攻博士課程を修了後、同年5月同農学部附属演習林教務職員に任命され、同年9月助手、同38年4月同農学部助手、同41年4月同助教を経て、同60年4月に同教授に昇任されました。

33年間にわたり本学における教育・研究に尽力され、平成6年3月定年により退官されるまで、木材化学の分野で数多くの業績を挙げられました。特に、カバノキ科に属する多くの樹木の抽出成分を詳細に検索し、特異的に存在するジアリルヘプタノイド系化合物の化学構造の相違からカバノキ科樹木の分類法を初めて提案されました。また、カラマツとトドマツの各材に含まれるリグナン系抽出成分に関する研究では、数多くの新規二〜四量体ネオリグナンを単離するとともに、ブラウンズリグニンの詳細な化学構造研究を行うことにより、これらがリグナンオリゴマーとして捉えられることを提案されました。さらに、木質バイオマスの簡易成分分離法の開発にも寄与され、斯界において高く評価されています。

先生は、木材化学講座教授としての教育・研究、外国人留学生の指導のほか、北海道大学発明委員会、機器分析運営委員会、言語文化部共同利用委員会などの委員として本学の管理・運営に寄与されました。学外においては複数の大学の非常勤講師を務めた他、北海道地域技術振興センター「バイオテクノロジー実用化研究開発」委員会委員として地域社会の科学技術振興に貢献されました。さらに学会活動として、日本木材学会理事・北海道支部長、日本木材加工技術協会北海道支部理事などを歴任され、学会・協会の発展に尽力されました。

長年にわたる先生のご貢献に感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

(農学院・農学研究院・農学部)

名誉教授 たかくわ えいまつ 高桑 榮松 氏
(享年98歳)



名誉教授 高桑榮松先生が、平成28年5月4日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正8年2月8日に新潟県に生まれ、昭和16年に北海道帝国大学医学部を卒業された後、衛生学講座に入られ、大学院特別研究生を経て、同23年4月に同講座の講師となりました。昭和23年5月に医学博士を授与され、同26年2月に助教授、同32年8月には教授に昇任されました。その後、昭和45年5月からは医学部長事務取扱

として、同47年1月から同51年1月までは北海道大学医学部長・医学研究科長として、医学部及び医学研究科の管理運営に当たられました。また、昭和52年に設立された、環境科学研究科(現：地球環境科学研究院)の新設にもご尽力され、同54年4月には、同研究科の第2代研究科長に就任されました。昭和56年4月に名誉教授となられ、本学退官後は、国立公害研究所(現：国立研究開発法人国立環境研究所)副所長を経て、同58年からは参議院議員を2期務められ、国政の場でもご活躍されました。これらの功績により、平成7年11月に勲一等瑞宝章を受章されました。

ご専門の衛生学の研究では、疲労度を評価する集中維持機能(TAF)テストを開発され、産業衛生の発展に寄与されるとともに、研究指導を通じて数多くの優れた門下生を育成されました。先生の衛生学に対する貢献は学会でも高く評価される所となり、昭

和56年には会長として第51回日本衛生学会総会を主宰されています。

先生は本学退官後、2つの基金を設立され、医学部の教育研究の発展に多大なご貢献をされました。医学部における医学教育の振興並びに創造的研究の育成等に資するために設立された「高桑榮松奨学基金」は、累計145名の学生及び研究者に助成を行っています。また、医学部において研究に従事する外国人研究者を助成する目的で設立された「高桑榮松学術交流奨学金」は、これまでに28名の外国人研究者に助成を行っています。

医学部の最長老の名誉教授であり、医学研究科・医学部のよき理解者・支援者であった先生を失ったことは哀惜の念に堪えません。先生の医学部における教育、研究、管理運営、学術交流等への長年にわたるご貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(医学研究科・医学部)

とつか やすのり
 名誉教授 戸塚 靖則 氏
 (享年68歳)



名誉教授 戸塚靖則先生が平成28年5月28日にご逝去されました。先生は昭和48年3月に北海道大学歯学部をご卒業され、同51年4月に同歯学部口腔外科学第一講座助手に採用されました。その後、昭和55年9月に歯学博士の学位を授与され、平成4年9月に北海道大学歯学部口腔外科学第二講座教授に昇任されました。先生は退職するまでの36年にわたり、大学院並びに学部学生の教育にあたりとともに、平成

9～11年、同15～19年まで(3期6年)、歯学研究科長・歯学部長並びに本学評議員を務められました。

研究科長・学部長在職中は歯学部改革に積極的に取り組み、平成12年には歯学部の大学院重点化を実現されました。さらに、米国オレゴンヘルスサイエンス大学、韓国全北大学校、中国ハルビン医科大学、中国医科大学口腔医学院との学術交流を積極的に推し進め、バングラデシュ・サッポロ歯科大学の創設にも多大な貢献をされました。

研究面においては下顎骨肉扁平上皮がんの顎骨への浸潤機序を解明し、同手術における下顎骨温存の選択基準を明確にされました。これらの論文はAJCC Cancer Staging Manualに記載され、世界の標準治療となりました。

学会活動では、日本口腔科学会理事長をはじめ、日本口腔外科学会、日本口蓋裂学会、日本歯科医学教育学会、

日本頭頸部癌学会、日本顎関節学会など多くの学術団体において理事・評議員として学会運営に尽力され、また平成20年には第19回日本スポーツ歯科医学会総会・学術集会、同21年には第54回日本口腔外科学会総会・学術大会、同22年には第64回日本口腔科学会総会・学術集会を主管されました。

学外委員としては歯科医師国家試験・試験委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、大学基準協会大学評価委員会などを歴任され、さらに、近年は日本学術会議連携会員(平成18～20年、同26年～)、日本学術会議会員(同20～26年)として歯科医学並びに歯科医療の発展に主導的な役割を果たされました。

ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(歯学研究科・歯学部)

資料

在籍学生数（平成28年5月1日現在）

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

学部

学部等名	入学定員	在籍者数							聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人]	人	191人	189人	248人	一人	一人	628人 (293<46.7%>)	12人	10人	19人	79人	748人 (374<50.0%>)
教育学部	50 [10]		54	68	70	—	—	192 (90<46.9 %>)	1	10	10	4	217 (105<48.4 %>)
法学部	200 [10] [10]		205	223	245	—	—	673 (216<32.1 %>)	6	2		6	687 (222<32.3 %>)
経済学部	190		204	194	245	—	—	643 (150<23.3 %>)	4		12	13	672 (170<25.3 %>)
理学部	300		307	322	349	—	—	978 (230<23.5 %>)	2	3		12	995 (237<23.8 %>)
医学部	287 [5] [20]		299	314	305	127	103	1,148 (525<45.7 %>)				7	1,155 (526<45.5 %>)
歯学部	53		59	53	51	54	41	258 (100<38.8 %>)			2		260 (100<38.5 %>)
薬学部	80		83	82	79	29	30	303 (125<41.3 %>)		3			306 (125<40.8 %>)
工学部	670 [10]		697	741	865	—	—	2,303 (324<14.1 %>)		1		48	2,352 (335<14.2 %>)
農学部	215		223	235	240	—	—	698 (261<37.4 %>)	2	1	1	13	715 (271<37.9 %>)
獣医学部	40		42	44	45	37	43	211 (84<39.8 %>)					211 (84<39.8 %>)
水産学部	215		232	230	204	—	—	666 (148<22.2 %>)			5	6	677 (151<22.3 %>)
現代日本語プログラム課程	—		11					11 (9<81.8 %>)					11 (9<81.8 %>)
総合教育部	—	2,690	—	—	—	—	—	2,690 (806<30.0 %>)				128	2,818 (855<30.3 %>)
合計	2,485 [15] [50]	2,690	2,607	2,695	2,946	247	217	11,402 (3,361<29.5 %>)	27	30	49	316	11,824 (3,564<30.1 %>)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	日本語・日本文化研修生	日本語研修生	合計
観光学高等研究センター	2人	人	一人	一人	2人(0< 0.0%>)
低温科学研究所	1		—	—	1 (1<100.0 %>)
電子科学研究所	2		—	—	2 (2<100.0 %>)
遺伝子病制御研究所	3		—	—	3 (0< 0.0 %>)
触媒科学研究所	1		—	—	1 (1<100.0 %>)
スラブ・ユーラシア研究センター	1		—	—	1 (0< 0.0 %>)
情報基盤センター	3		—	—	3 (2< 66.7 %>)
国際本部			69	12	81 (63< 77.8 %>)
総合博物館	1		—	—	1 (1<100.0 %>)
北方生物圏フィールド科学センター	2		—	—	2 (0< 0.0 %>)
合計	16	0	69	12	97 (70< 72.2 %>)

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。

生命科学学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。

■大学院

研究科等名	修士課程(博士前期)				専門職学位課程				博士課程(博士後期及び博士一貫)					聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講生	特別研究生	合計		
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
文学研究科	90人	86人	117人	203人 (95/46.8%)	—人	—人	—人	—人	—人	35人	36人	28人	120人	—人	184人 (93/50.5%)	5人	0人	8人	10人	5人	415人 (206/49.6%)
法学研究科	20	14	21	35 (16/45.7)	50	16	19	14	—	15	2	12	29	—	43 (14/32.6)		1	6	8	4	204 (69/33.8)
経済学研究科	30	36	40	76 (46/60.5)	20	13	13	—	—	15	5	3	15	—	23 (8/34.8)		1				126 (59/46.8)
医学研究科	30	33	19	52 (29/55.8)	—	—	—	—	—	100	88	91	90	175	444 (107/24.1)			6		1	503 (139/27.6)
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	33	37	28	27	125 (47/37.6)			11			136 (50/36.8)
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	32	16	32	22	102 (45/44.1)			5			107 (48/44.9)
情報科学研究科	177	176	193	369 (42/11.4)	—	—	—	—	—	42	43	21	87	—	151 (20/13.2)			13	4	3	540 (67/12.4)
水産科学院	90	116	95	211 (57/27.0)	—	—	—	—	—	35	18	15	23	—	56 (15/26.8)				3	6	276 (77/27.9)
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (1/100.0)
環境科学院	159	145	174	319 (125/39.2)	—	—	—	—	—	63	28	47	89	—	164 (59/36.0)	1					484 (185/38.2)
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			15			15 (9/60.0)
理学院	129	144	136	280 (48/17.1)	—	—	—	—	—	56	50	40	64	—	154 (28/18.2)	1				8	443 (78/17.6)
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			9			9 (2/22.2)
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (0/0.0)
農学院	150	179	158	337 (123/36.5)	—	—	—	—	—	50	41	40	70	—	151 (46/30.5)				4		492 (172/35.0)
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			8			8 (5/62.5)
生命科学学院	132	127	143	270 (101/37.4)	—	—	—	—	—	46	38	37	56	—	155 (40/25.8)					5	430 (146/34.0)
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (0/0.0)
教育学院	45	38	61	99 (68/68.7)	—	—	—	—	—	21	19	13	57	—	89 (42/47.2)	2			2	1	193 (113/58.5)
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			6			6 (3/50.0)
国際広報メディア・観光学院	42	44	60	104 (73/70.2)	—	—	—	—	—	17	14	13	53	—	80 (40/50.0)	2			3		189 (117/61.9)
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			13			13 (10/76.9)
保健科学院	26	50	61	111 (51/45.9)	—	—	—	—	—	8	10	11	19	—	40 (17/42.5)				1	1	153 (70/45.8)
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			2			2 (2/100.0)
工学院	326	371	357	728 (107/14.7)	—	—	—	—	—	69	59	51	67	—	177 (31/17.5)				12	7	924 (144/15.6)
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			22			22 (3/13.6)
工学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6 (0/0.0)						6 (0/0.0)
総合化学院	129	149	153	302 (63/20.9)	—	—	—	—	—	38	53	43	65	—	161 (34/21.1)					2	465 (98/21.1)
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	31	47	—	78 (25/32.1)	—	—	—	—	—	—	1	3				82 (25/30.5)
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			4			4 (3/75.0)
合計	1,575	1,708	1,788	3,496 (1,044/29.9)	100	87	110	14	211 (55/26.1)	680	576	526	974	229	2,305 (686/29.8)	12	5	131	47	43	6,250 (1,901/30.4)

(学務部学務企画課)

平成28年度外国人留学生数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

【部局別】

学部等

平成28年5月1日現在

部 局 名	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文 学 部	1(1)	1(1)				94(67)	96(69)
教 育 学 部	1(1)				2(1)	14(11)	17(13)
法 学 部				1(1)		5(3)	6(4)
経 済 学 部	1(1)					26(19)	27(20)
理 学 部					2	12(6)	14(6)
医 学 部	1				2(1)	6	9(1)
工 学 部	23(3)		8(3)	1	15(4)	45(11)	92(21)
農 学 部	3(2)				2(1)	11(7)	16(10)
獣 医 学 部					1(1)		1(1)
水 産 学 部					2(1)	8(3)	10(4)
現代日本学プログラム課程					11(9)		11(9)
高等教育推進機構総合教育部	10		3(2)		29(17)		42(19)
合 計	40(8)	1(1)	11(5)	2(1)	66(35)	221(127)	341(177)

大学院等

部 局 名	国 費				外国政府派遣				私 費				合 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文 学 研 究 科	6(1)		10(3)	1			4(4)		64(45)		49(29)	17(12)	151(94)
法 学 研 究 科							4(1)		17(12)		16(5)	18(13)	55(31)
経 済 学 研 究 科	4(2)		1				1(1)		59(41)	2	5(3)		72(47)
医 学 研 究 科			5(3)				2(1)		6(5)		15(8)	2(2)	30(19)
歯 学 研 究 科			1(1)								7(2)		8(3)
獣 医 学 研 究 科			24(11)				3(2)				22(14)	2(2)	51(29)
情 報 科 学 研 究 科	1		11(3)	2(1)			9(3)		30(7)		24(6)	17(4)	94(24)
水 産 科 学 研 究 院	1		5(2)				2(2)		14(7)		9(3)	9(5)	40(19)
水 産 科 学 研 究 院				1(1)									1(1)
環 境 科 学 研 究 院	9(4)		16(11)				3(1)		66(35)		35(17)		129(68)
地 球 環 境 科 学 研 究 院												14(9)	14(9)
理 学 研 究 院	5(2)		12(2)				1		21(8)		18(5)		57(17)
理 学 研 究 院				2								4(2)	6(2)
農 学 研 究 院	11(6)		33(14)				5		16(8)		34(15)	3(2)	102(45)
農 学 研 究 院				1(1)								3(2)	4(3)
生 命 科 学 研 究 院	4(2)		32(13)				2(1)		10(7)		16(5)	4(4)	68(32)
教 育 学 研 究 院			5(5)				1(1)		37(31)		7(3)	3(1)	53(41)
教 育 学 研 究 院												1	1
国 際 広 報 メ デ ィ ア ・ 観 光 学 院	2(1)		5(4)				1		62(52)		15(9)	3(2)	88(68)
メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 研 究 院												13(10)	13(10)
保 健 科 学 研 究 院	1(1)		1						5(5)		4(2)	1(1)	12(9)
保 健 科 学 研 究 院												1(1)	1(1)
工 学 研 究 院	30(10)		37(11)				12	2	39(8)		30(8)	15(6)	165(43)
工 学 研 究 院				3				1				14(2)	18(2)
工 学 研 究 院											1		1
総 合 化 学 研 究 院	1(1)		16(9)		2(1)		2	1	9(2)		20(10)	1(1)	52(24)
公 共 政 策 学 教 育 部										14(9)			14(9)
公 共 政 策 学 連 携 研 究 部												4(3)	4(3)
低 温 科 学 研 究 所												1(1)	1(1)
電 子 科 学 研 究 所												1(1)	1(1)
触 媒 科 学 研 究 所												1(1)	1(1)
ス ラ ブ ・ ユ ー ラ シ ア 研 究 セ ン タ ー				1									1
情 報 基 盤 セ ン タ ー												3(2)	3(2)
北 方 生 物 園 フ ィ ー ル ド 科 学 セ ン タ ー				1								1	2
観 光 学 高 等 研 究 セ ン タ ー				1									1
国 際 本 部													
高 等 教 育 推 進 機 構													
合 計	75(30)		214(92)	13(3)	2(1)		52(17)	4	455(273)	16(9)	327(144)	156(89)	1,314(658)

日本語研修生等

国 際 本 部	日本語・日本文化研修生		日 本 語 研 修 生		合 計
	国 費	私 費	国 費	私 費	
	30(25)	38(32)	12(5)		80(62)

外国人留学生及び外国人学生総数

学部留学生数	大 学 院 留 学 生			研 究 生 等	日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生	留 学 生 総 数	外 国 人 学 生 〔留学〕以外	留 学 生 及 び 外 国 人 学 生 総 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
117(48)	532(304)	16(9)	593(253)	397(221)	80(62)	1,735(897)	42(14)	1,777(911)

※（ ）内は女子を内数で示す。

※修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む。

※研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む。

(国際本部国際教務課)

平成28年度国別外国人留学生数 (「留学」以外の在留資格の者を含む)

平成28年5月1日現在

Table with columns for region (Asia, Middle East, Oceania, North America, South America, Europe), country, and various student categories (undergraduate, graduate, etc.) with numerical counts.

※ () 内は女子の数で内数。

(国際本部国際教務課)

平成27年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学部

平成28年5月1日現在

項目	文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	医学科	保健学科		薬科学科(4年制)	薬科学科(6年制)					
(A) 卒業生数	(95)	(30)	(76)	(51)	(85)	(18)	(124)	(21)	(15)	(16)	(98)	(80)	(17)	(47)	(773)					
(B) 就職希望者数	193	61	208	187	302	107	194	54	61	30	695	226	41	193	2,552					
(C) 就職者数	(2) (71)	(0) (20)	(1) (56)	(0) (46)	(1) (6)	(0) (92)	(0) (13)	(0) (24)	(0) (25)	(0) (11)	(0) (15)	(0) (15)	(5) (380)	(3) (288)						
うち	(35)	(10)	(28)	(25)	(4)	(29)	(1)	(10)	(19)	(16)	(10)	(9)	(196)	(196)						
うち	75	26	89	111	25	36	6	17	77	35	23	40	560	560						
うち														(0)						
うち														0						
(D) 就職率(%)	(92.2)	(100.0)	(96.6)	(97.9)	(75.0)	-	(100.0)	-	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(96.2)	(100.0)	(100.0)	(96.7)					
90.0	95.6	94.0	95.4	81.6	-	99.2	-	85.7	100.0	99.0	91.2	92.9	96.4	94.5						
昨年	(90.8)	(100.0)	(94.6)	(97.8)	(100.0)	-	(100.0)	-	-	(100.0)	(95.5)	(100.0)	(90.5)	(96.6)						
89.4	100.0	93.9	95.8	97.1	-	100.0	-	50.0	100.0	92.9	91.5	100.0	77.6	93.8						
(E) 進学者数	(11) (15)	(7) (9)	(9) (12)	(3) (3)	(7) (7)	(0) (0)	(22) (28)	(0) (0)	(13) (13)	(2) (2)	(67) (70)	(50) (52)	(3) (4)	(31) (31)	(288) (314)					
うち	(26) 33	(7) 11	(20) 35	(7) 11	(238) 255	(2) 2	(53) 61	(0) 0	(52) 54	(4) 4	(544) 572	(152) 164	(6) 7	(125) 130	(1,236) 1,339					
うち	(11) (15)	(7) (9)	(9) (12)	(3) (3)	(7) (7)	(0) (0)	(22) (25)		(13) (13)	(2) (2)	(67) (70)	(50) (51)	(3) (4)	(31) (31)	(288) (310)					
うち	(26) 33	(7) 11	(20) 35	(7) 11	(238) 255	(2) 2	(53) 58		(51) 53	(4) 4	(544) 571	(152) 162	(6) 7	(125) 130	(1,235) 1,332					
うち							(0) (3)		(0) (0)		(0) (1)				(0) (4)					
うち							(0) 3		(1) 1		(0) 2				(1) 7					
うち	(0) (0)														(0) (0)					
うち	(1) 1														(1) 1					
(F) その他	(9)	(1)	(8)	(2)	(4)	(18)	(4)	(21)	(1)	(1)	(4)	(3)	(2)	(1)	(79)					
25	7	31	16	105	8	54	1	19	10	8	10	305								

・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段()は女子で内数/就職率()は女子の就職率

・ 就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。

・ 進学者数〔 〕は、本学進学者数で内数。

・ 進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数。

◇医学部医学科については、卒業後2年間の研修期間がある。

◇歯学部については、卒業後1年間の研修期間がある。

◇薬学部は、4年制(薬科学科)と、6年制(薬学科)がある。

修士課程

項目	文学研究科		法学研究科		経済学研究科		医学研究科		情報科学研究科		水産科学院		環境科学院		理学院		農学院		生命科学院		教育学院		国際広域メディア・観光学院		保健科学院		工学院		総合化学院		合計
	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望	卒業	就職希望			
(A) 修了生数	(43)	(8)	(12)	(10)	(13)	(30)	(36)	(18)	(50)	(26)	(30)	(32)	(18)	(35)	(22)	(383)															
(B) 就職希望者数	73	18	29	20	183	108	117	128	163	99	48	46	38	322	146	1,538															
(C) 就職者数	(2) (20)	(0) (5)	(0) (7)	(0) (5)	(0) (12)	(0) (25)	(2) (24)	(0) (8)	(1) (39)	(0) (23)	(2) (15)	(1) (16)	(0) (15)	(0) (25)	(0) (19)	(8) (258)															
うち	(11)	(2)	(7)	(2)	(11)	(19)	(20)	(5)	(28)	(19)	(2)	(10)	(6)	(19)	(17)	(178)															
うち	17	4	17	6	129	74	63	65	103	60	4	12	13	259	95	921															
うち	(1)		(0)					(1)		(5)		(2)			(10)																
うち	1		2	1			1	1	7	4	4				17																
(D) 就職率(%)	(87.0)	(100.0)	(100.0)	(83.3)	(100.0)	(96.2)	(88.9)	(100.0)	(86.7)	(95.8)	(88.2)	(69.6)	(93.8)	(96.2)	(100.0)	(90.8)															
83.3	90.9	100.0	92.9	100.0	96.9	93.2	96.5	90.8	95.9	88.9	75.0	97.0	99.3	99.1	95.9																
昨年	(81.8)	(75.0)	(66.7)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(95.2)	(89.5)	(100.0)	(66.7)	(66.7)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(90.9)															
79.6	83.3	81.8	87.5	99.4	97.4	100.0	94.8	90.6	96.5	80.0	82.9	97.1	99.3	99.1	95.6																
(E) 進学者数	(7) (7)	(0) (0)	(0) (0)	(1) (1)	(1) (1)	(2) (2)	(1) (2)	(6) (7)	(4) (4)	(0) (1)	(5) (5)	(4) (4)	(1) (1)	(4) (5)	(3) (3)	(39) (43)															
うち	(20) 20	(1) 1	(0) 1	(2) 3	(20) 20	(8) 8	(13) 14	(32) 34	(18) 20	(21) 24	(11) 11	(8) 9	(4) 4	(19) 20	(37) 37	(214) 226															
うち	(7) (7)	(0) (0)	(0) (0)	(1) (1)	(1) (1)	(2) (2)	(1) (2)	(6) (7)	(4) (4)	(0) (0)	(5) (5)	(4) (4)	(1) (1)	(4) (5)	(3) (3)	(39) (42)															
うち	(20) 20	(1) 1	(0) 1	(2) 3	(20) 20	(8) 8	(13) 14	(32) 34	(18) 20	(21) 23	(11) 11	(8) 9	(4) 4	(19) 20	(37) 37	(214) 225															
うち										(0) (1)						(0) (1)															
うち										(0) 1						(0) 1															
うち	(0) (2)															(0) (2)															
うち	(0) 2															(0) 2															
(F) その他	(16)	(3)	(5)	(4)	(0)	(3)	(10)	(3)	(7)	(2)	(10)	(12)	(2)	(5)	(0)	(82)															
23	7	10	4	6	7	21	11	14	5	13	16	2	12	4	155																

・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段()は女子で内数/就職率()は女子の就職率

・ 就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。

・ 進学者数〔 〕は、本学進学者数で内数。

・ 進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数。

専門職大学院

項目	研究科等	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合計
(A)		(11)	(3)	(7)	(21)
修了者数		49	15	19	83
(B)		(2)	(3)	(6)	(11)
就職希望者数		2	13	16	31
(C)		[0] (2)	[0] (3)	[1] (5)	[1] (10)
就職者数		[0] 2	[0] 13	[1] 13	[1] 28
うち			(2)	(4)	(6)
道外就職者			10	9	19
うち				(0)	(0)
有職者				2	2
(D)		(100.0)	(100.0)	(83.3)	(90.9)
就職率(%)		100.0	100.0	81.3	90.3
昨年の就職率(%)		-	(100.0)	(85.7)	(87.5)
		100.0	85.7	92.7	91.1
(E)		[0] (0)	[0] (0)	[0] (1)	[0] (1)
進学者数		[0] 0	[0] 0	[2] 3	[2] 3
うち				[0] (1)	[0] (1)
大学院				[2] 3	[2] 3
うち					[0] (0)
大学					[0] 0
うち					[0] (0)
就職している者					[0] 0
(F)		(9)	(0)	(1)	(10)
その他		47	2	3	52

- ・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段()は女子で内数/就職率()は女子の就職率
 ・ 就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。
 ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者数で内数。
 ・ 進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数。
 ◇法科大学院の(F)その他には、修了後に実施される新司法試験の受験準備者を含む。

博士課程

項目	研究科・学院	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	獣医学研究科	情報科学研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学院	教育学院	国際広報メディア・観光学院	保健科学院	工学院*	総合化学院	合計
(A)		[8] (19)	[0] (1)	[1] (1)	[2] (14)	[1] (14)	[1] (4)	[2] (3)	[1] (5)	[2] (7)	[1] (5)	[0] (9)	[2] (8)	[3] (3)	[1] (4)	[0] (2)	[0] (6)	[1] (9)	[26] (114)
修了者数		[14] 37	[2] 8	[1] 3	[6] 71	[1] 34	[2] 16	[6] 38	[7] 25	[5] 26	[8] 23	[3] 37	[4] 31	[4] 5	[2] 9	[0] 6	[7] 43	[3] 39	[75] 451
(B)		(6)	(1)	(0)	(12)	(4)	(3)	(3)	(1)	(4)	(3)	(6)	(7)	(2)	(4)	(2)	(3)	(8)	(69)
就職希望者数		15	7	2	61	13	11	31	13	14	14	28	25	3	9	6	24	35	311
(C)		[0] (5)	[0] (1)	[0] (0)	[10] (12)	[2] (4)	[2] (3)	[1] (3)	[0] (1)	[1] (4)	[1] (3)	[1] (3)	[3] (7)	[1] (2)	[0] (2)	[0] (2)	[0] (3)	[4] (8)	[26] (63)
就職者数		[3] 14	[0] 7	[0] 2	[20] 61	[5] 13	[7] 11	[12] 30	[0] 12	[5] 14	[2] 12	[2] 14	[10] 24	[1] 3	[0] 6	[0] 6	[1] 23	[19] 35	[96] 287
うち		(3)	(0)	(0)	(5)	(0)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(2)	(5)	(2)	(1)	(1)	(2)	(6)	(37)
道外就職者		7	1	1	12	1	6	21	7	7	11	6	16	6	2	2	15	27	146
うち		(1)	(5)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(12)
有職者		3			21	1		10	6	3		5	1	3	3	2	6	1	65
(D)		(83.3)	(100.0)	-	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(91.3)
就職率(%)		93.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.8	92.3	100.0	85.7	50.0	96.0	100.0	66.7	100.0	95.8	100.0	92.3
昨年の就職率(%)		(100.0)	-	(50.0)	(90.9)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(66.7)	(50.0)	(100.0)	(80.0)	(100.0)	(100.0)	-	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(89.9)
		94.4	100.0	77.8	96.3	100.0	100.0	97.2	90.0	82.4	93.8	84.0	92.0	100.0	-	100.0	91.5	100.0	93.6
(E)		[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)	[0] (0)
進学者数		[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0	[0] 0
うち																			[0] (0)
大学院																			[0] (0)
うち																			[0] (0)
大学																			[0] (0)
うち																			[0] (0)
就職している者																			[0] (0)
(F)		(14)	(0)	(1)	(2)	(10)	(1)	(0)	(4)	(3)	(2)	(6)	(1)	(1)	(2)		(3)	(1)	(51)
その他		23	1	1	10	21	5	8	13	12	11	23	7	2	3		20	4	164

- ・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段()は女子で内数/就職率()は女子の就職率
 ・ 博士の修了者数〔 〕は、単位修得退学者で内数。(※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含める。)
 ・ 就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。
 ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者数で内数。
 ・ 進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数。
 * :工学院には、工学研究科修了者を含む。

2. 地域別就職者数

学部

平成28年5月1日現在

企業所在地	学部		文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	文学部	理学部						医学科	保健学科		薬科学科(4年制)	薬科学科(6年制)					
北海道	札幌市	36 (23)	14 (7)	47 (24)	5 (2)	4 (2)		75 (53)			8 (3)		22 (3)	15 (8)		8 (3)	234 (128)
	札幌市以外	24 (13)	3 (3)	6 (4)	50 (19)	1 (0)		14 (10)					5 (2)	2 (1)	3 (1)	5 (3)	113 (56)
東北	青森県	1 (1)		2 (1)	1 (0)			1 (1)						1 (1)		2 (1)	6 (3)
	岩手県												1 (0)				3 (2)
	宮城県	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)											7 (1)
	秋田県			1 (0)													2 (0)
	山形県				1 (1)												2 (0)
	福島県																3 (2)
	茨城県			2 (0)	1 (0)												5 (1)
	栃木県	1 (1)						1 (1)									3 (3)
	群馬県			3 (0)													6 (1)
	埼玉県	3 (0)		2 (0)	2 (0)												6 (1)
	千葉県	46 (25)	15 (6)	62 (21)	73 (17)	17 (2)		3 (2)					2 (0)	23 (10)	5 (2)	20 (5)	350 (123)
	東京都	1 (1)		1 (0)	3 (1)			19 (17)					58 (13)	1 (0)	1 (1)		16 (8)
	神奈川県	2 (0)		1 (1)	1 (1)			4 (3)					4 (2)	1 (0)			16 (8)
	新潟県			1 (1)	1 (1)									1 (0)			5 (2)
	富山県	1 (0)		1 (1)	2 (0)	3 (1)							1 (0)				8 (2)
	石川県			2 (2)										2 (2)			5 (4)
	福井県																0 (0)
	山梨県	1 (1)	1 (1)										1 (0)				3 (2)
	長野県	1 (0)		1 (0)	1 (1)								1 (0)				3 (2)
	岐阜県	2 (1)	2 (0)	1 (0)				1 (1)					1 (0)				4 (0)
	静岡県	3 (1)	4 (1)	2 (0)	8 (1)	2 (0)							2 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	9 (2)
	愛知県																24 (4)
	三重県																2 (2)
	滋賀県		1 (1)		1 (1)												5 (2)
	京都府	3 (0)	2 (1)	2 (0)	3 (0)			1 (1)						1 (0)			8 (2)
	大阪府				4 (1)			3 (2)					3 (2)	1 (0)	5 (1)	1 (0)	27 (8)
	兵庫県	1 (0)		1 (0)	3 (0)			2 (1)					1 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	11 (4)
	奈良県			1 (1)													1 (1)
	和歌山県																0 (0)
	鳥取県																0 (0)
	島根県																0 (0)
	岡山県	2 (1)														1 (0)	1 (0)
	広島県	1 (0)											2 (0)				2 (1)
	山口県																5 (0)
	徳島県																1 (0)
	香川県	1 (1)															1 (1)
	愛媛県	2 (1)			1 (0)												1 (1)
	高知県																5 (2)
	福岡県	1 (1)		1 (1)				1 (0)									1 (0)
	佐賀県	1 (0)					1 (0)										1 (0)
	長崎県																0 (0)
	熊本県			1 (0)													0 (0)
	大分県																0 (0)
	宮崎県																0 (0)
	鹿児島県																0 (0)
沖縄県							1 (0)										1 (0)
海外																	0 (0)
就職先詳細不明					1 (0)		1 (0)										2 (0)
合計		135 (71)	43 (20)	142 (56)	166 (46)	31 (6)	0 (0)	125 (92)	6 (1)	25 (13)	104 (24)	52 (25)	26 (11)	53 (15)	908 (380)		

※ () は女子で内数。

修士課程

企業の新生地	研究科・学院	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	情報科学研究科	水産研究科	環境研究科	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際広報メディア・観光学院	保健科学学院	工学院	総合化学院	合計	
北海道	札幌市	11 (7)	5 (3)	1 (0)	3 (2)	7 (1)	12 (3)	17 (3)	12 (2)	21 (8)	6 (2)	15 (9)	9 (6)	15 (5)	25 (4)	4 (1)	163 (56)	
	札幌市以外	2 (2)	1 (0)	1 (0)	4 (1)	21 (0)	7 (3)	2 (1)	6 (1)	5 (3)	4 (4)	5 (4)		4 (4)	5 (2)	6 (1)	72 (24)	
東北	青森県		1 (0)				1 (0)	1 (1)		1 (1)				1 (0)			5 (2)	
	岩手県								1 (0)								2 (0)	
	宮城県					1 (0)	1 (1)								3 (0)		8 (1)	
	秋田県																1 (1)	
	山形県														1 (0)		1 (0)	
	福島県																	1 (0)
	茨城県						1 (0)	3 (2)	2 (0)	1 (0)	1 (1)				4 (1)	2 (1)	15 (4)	
	栃木県						1 (0)	1 (0)		1 (1)					3 (1)		7 (2)	
	群馬県								1 (0)	1 (1)						1 (0)	3 (1)	
	埼玉県							1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)					1 (0)	7 (2)	
関東	千葉県	1 (1)				1 (0)	3 (2)	2 (2)			1 (1)					1 (0)	3 (1)	
	東京都	12 (8)	3 (2)	10 (4)	2 (1)	86 (6)	44 (8)	38 (10)	44 (1)	62 (16)	33 (9)	3 (2)	6 (4)	4 (2)	5 (1)	3 (0)	16 (6)	
	神奈川県	1 (0)		1 (0)		10 (2)	3 (1)	6 (3)	5 (1)	5 (1)	2 (2)	1 (0)			11 (2)	5 (1)	573 (94)	
	新潟県						1 (1)	1 (0)		1 (1)							11 (2)	
	富山県					1 (0)					1 (0)				2 (0)	1 (0)	5 (0)	
	石川県					1 (0)				1 (0)			1 (1)			1 (0)	4 (1)	
	福井県							1 (0)								1 (0)	1 (0)	
	山梨県								1 (0)						1 (0)	1 (0)	3 (0)	
	長野県						1 (0)									1 (0)	2 (0)	
	岐阜県																	1 (1)
中部	静岡県					1 (0)	2 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (0)	1 (1)						1 (1)	
	愛知県	1 (1)			1 (1)	7 (0)	2 (1)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	3 (2)			2 (2)	4 (0)	2 (0)	16 (3)	
	三重県	1 (0)					2 (1)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	1 (1)				20 (2)	5 (1)	44 (10)	
	滋賀県															2 (0)	5 (1)	
	京都府					2 (0)			4 (3)	1 (0)	2 (0)					1 (1)	1 (1)	
	大阪府	1 (1)			2 (0)	11 (3)	6 (1)	3 (1)	1 (0)	11 (1)	8 (2)			1 (1)	1 (0)	5 (1)	16 (5)	
	兵庫県			1 (1)		2 (0)	2 (1)	2 (0)		2 (2)	3 (1)				12 (0)	8 (1)	63 (10)	
	奈良県														9 (0)	2 (0)	23 (5)	
	和歌山県																0 (0)	
	近畿	鳥取県									1 (0)							1 (0)
島根県										1 (0)							1 (0)	
岡山県																	0 (0)	
広島県										1 (0)					3 (0)	1 (1)	5 (1)	
山口県					1 (0)											1 (1)	0 (0)	
徳島県							1 (0)				1 (0)					1 (1)	2 (1)	
香川県						1 (0)	1 (0)			1 (0)							3 (0)	
愛媛県								1 (0)		1 (0)							2 (0)	
高知県							1 (1)										1 (1)	
中国		福岡県						1 (0)			1 (0)	1 (0)				2 (0)	1 (0)	5 (0)
	佐賀県																1 (0)	
	長崎県																0 (0)	
	熊本県																0 (0)	
	大分県																0 (0)	
	宮崎県																0 (0)	
	鹿児島県							1 (1)									1 (1)	
	九州	沖縄県								1 (0)								0 (0)
		海外					1 (0)			1 (0)	3 (2)						1 (0)	1 (0)
		就職先詳細不明					2 (0)											3 (0)
合計		30 (20)	10 (5)	18 (7)	13 (5)	157 (12)	93 (25)	82 (24)	83 (8)	129 (39)	70 (23)	24 (15)	21 (16)	32 (15)	290 (25)	105 (19)	1,157 (258)	

※()は女子で内数。

専門職大学院

企業の新在り地	研究科等	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合 計
北海道	札幌市以外	2	3	4	9
東北	青森県	(2)	(1)	(1)	(4)
	岩手県				(0)
	宮城県				(0)
	秋田県				(0)
	山形県				(0)
関東	福島県				(0)
	茨城県				(0)
	栃木県				(0)
	群馬県				(0)
	埼玉県				(0)
北陸	千葉県		5	7	12
	東京都		(2)	(3)	(5)
	神奈川県				(0)
	新潟県				(0)
	富山県				(0)
中部	石川県		1		1
	福井県		(0)		(0)
	山梨県				(0)
	長野県				(0)
	岐阜県				(0)
近畿	静岡県		2		2
	愛知県		(0)		(0)
	三重県				(0)
	滋賀県				(0)
	京都府		1		1
中国	大阪府		(0)		(0)
	兵庫県		1		1
	奈良県		(0)		(0)
	和歌山県				(0)
	鳥取県				(0)
四国	島根県				(0)
	岡山県				(0)
	広島県				(0)
	山口県				(0)
	徳島県				(0)
九州	香川県				(0)
	愛媛県				(0)
	高知県				(0)
	福岡県				(0)
	佐賀県				(0)
沖縄県	長崎県				(0)
	熊本県				(0)
	大分県				(0)
	宮崎県				(0)
	鹿児島県				(0)
海外					(0)
就職先詳細不明				2	(1)
合 計		2	13	13	28
		(2)	(3)	(5)	(10)

※ () は女子で内数。

博士課程

企業の新在地	研究科・学院	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	工学研究科	歯学研究科	獣医学研究科	情報科学研究科	水産科学研究科	環境科学研究科	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際経営大学院 ・龍谷学院	保健科学学院	工学院*	総合化学院	合計					
北海道	札幌市	3 (0)	6 (1)	1 (0)	36 (6)	8 (3)	5 (1)	8 (0)	1 (0)	1 (0)	6 (1)	1 (0)	3 (1)	8 (2)	2 (1)	6 (1)	2 (1)	8 (2)	105 (21)						
	札幌市以外	4 (2)			13 (1)	4 (1)		1 (0)	2 (1)	4 (0)	1 (1)	1 (0)	5 (0)		2 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	35 (5)						
東北	青森県																								
	岩手県																								
	宮城県																								
	秋田県																								
関東	山形県																								
	福島県																								
	茨城県				1 (1)							2 (1)													
	栃木県				1 (0)																				
北陸	群馬県				1 (0)																				
	埼玉県				1 (0)																				
	千葉県				3 (1)																				
	東京都	2 (2)																							
中部	神奈川県				1 (0)																				
	新潟県																								
	富山県																								
	石川県																								
近畿	福井県																								
	山梨県																								
	長野県																								
	岐阜県																								
中国	静岡県																								
	愛知県				1 (1)																				
	三重県																								
	滋賀県																								
四国	京都府	1 (0)																							
	大阪府																								
	兵庫県																								
	奈良県																								
九州	和歌山県																								
	鳥取県																								
	島根県																								
	岡山県	1 (0)																							
海外	広島県																								
	山口県																								
	徳島県																								
	香川県																								
計	愛媛県			1 (0)																					
	高知県																								
	福岡県																								
	佐賀県																								
海外	長崎県																								
	熊本県																								
	大分県																								
	宮崎県				1 (0)																				
海外	鹿児島県																								
	沖縄県																								
	計	14 (5)	7 (1)	2 (0)	61 (12)	13 (4)	11 (3)	30 (3)	12 (1)	14 (4)	12 (3)	14 (3)	5 (2)	1 (0)	3 (1)	4 (2)	3 (1)	1 (0)	3 (2)	24 (7)	3 (2)	6 (2)	23 (3)	35 (8)	287 (63)
	海外	3 (1)	1 (0)		4 (2)		3 (1)	4 (2)	2 (0)	3 (1)	5 (2)														
就職先詳細不明																									

※ () は女子で内数。

* : 工学院には、工学研究科修了者を含む。

(学務部キャリアアセンター)

抱	あ	帰
いた	の	ろ
た	日	う。
場	大	
所	志	
へ。	を	

9.24 2016 北海道大学
[Sat] ホームカミングデー
2016

お問い合わせ先
北海道大学 総務企画部 広報課
TEL:011-706-2012 FAX:011-706-2092
受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日を除く)

<http://www.hokudai.ac.jp/home2016/>
会場 北海道大学 札幌キャンパス
主催 北海道大学
共催 北海道大学校友会エルム

HOKKAIDO UNIVERSITY
HOMECOMING
DAY 2016
Be ambitious again!

編集メモ

●「ホームカミングデー2016」を9月24日（土）に開催します。
ホームカミングデー2016オフィシャルサイトでは、今年度の情報を随時更新していく予定です。過去の開催内容が

わかる写真や動画も掲載していますので、ぜひご覧ください。
本年も多彩な行事をご用意して、同窓生の皆様をお待ちしています。
◆ <http://www.hokudai.ac.jp/home2016/>



2015.6.6 室蘭本線 小幌（豊浦町・長万部町）

北の鉄道風景 39 日本一の秘境駅

鉄道ファンの間で「日本一の秘境駅」として有名な室蘭本線・小幌駅。両側をトンネルに挟まれた谷間に設置された無人駅であって、列車以外の手段で訪れることは難しいとされている。合理化を進めるJR北海道は昨年度、この駅の廃止方針を打ち出した。しかし、地元自治体である豊浦町は同駅の存続を強く求め、存続問題に関して同町はJR北海道との協議を進めた。その結果、小幌駅は、豊浦町の経済

的・人的支援によって当面存続することとなった。豊浦町が負担する同駅の維持費用の財源の一つとして、同町への「ふるさと納税」が活用される。皆様にも豊浦町へのふるさと納税をご検討いただくことを、この場をお借りしてお願いする次第である。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑥ No.747 平成28年6月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html